

アジアとアフリカの境界で鉄に出会う

メロエ文明の鉄器生産とスーダン共和国の現状

講師：関広 尚世（日本オリエント学会会員）

日時：2012年10月26日（金） 19:00～

場所：愛媛大学 愛大ミュージアム1階アクティブラーニングスペース2

アジアとアフリカの境界、スーダンに忘れ去られようとした古代鉄器文明があります。その文明とは、古代エジプト文明との関わりの中で生まれ、そして独自の文化を育み発展した「メロエ文明」です。近年、メロエ文明を発展させたものは、彼らが持つ製鉄技術であったことが具体的に分かってきました。今回は、日本ではあまり知ることができないメロエの鉄器生産について、日本の女流考古学者、関広尚世さんにお話ししていただきます。

また、メロエ文明の中心都市であったメロエ遺跡は、2011年に世界遺産に登録されました。スーダン共和国が現在抱える文化財保護の問題点についても語っていただきます。



【講師紹介】日本に数少ないスーダン考古学者。学生時代に、イタリアのポンペイ遺跡などの調査に参加。時間を見つけては、エジプトやスーダンに行き考古研究を進めてきた。現在では、日本で発掘調査の仕事に携わると同時に、スーダンの地元研究者らとの連携を続けている。

略歴：独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所特別研究員、スーダン・ハルツーム大学招聘研究員を経て現職。

入場無料

お問い合わせ：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
電話：089-927-8391 Email：kotetsu@stu.ehime-u.ac.jp
HP：http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/

